『第１回海部川砂利利用促進協議会』議事概要

■日時：平成２８年１月３０日（土）　午前１０時００分～午前１１時３０分

■場所：海陽町役場３階大会議室

■出席者：

（委員、敬称略）

長田健吾、見吉政貴、丸本昌男、原　幸子、天野賀津子、中川惠美、土居雅明、
中野憲次、田中宇輝、花岡史恵、笠原まり

（事務局）

徳島県、海陽町

■次第：

１．開会　飯泉徳島県知事挨拶

２．海部川砂利利用促進協議会設置要綱について

３．議事

（１）委員長の選任

（２）職務代行者の指名

（３）海部川における堆積土砂対策（案）についての意見交換

４．その他

５．閉会　前田海陽町長挨拶

■配布資料：

資料１．海部川砂利利用促進協議会設置要綱

資料２．海部川における堆積土砂対策（案）

参考資料

（１）次第

（２）配席図

（３）海部川砂利利用促進協議会　委員名簿

■議事

１．開会
　飯泉徳島県知事より挨拶

２．「海部川砂利利用促進協議会」の設置について
　事務局から説明

３．議事
（１）委員の互選により、委員長にＡ委員が選任された。
（２）委員長により、職務代行者にＢ委員が指名された。
（３）「海部川における堆積土砂対策（案)」について、資料に基づき事務局から説明

＜意見交換概要＞
【Ｃ委員】
　今回の海部川の堆積土砂対策につきまして県南部総合県民局、また、飯泉知事におかれましては大きな英断をしていただき、また、この様な大きなプロジェクトを計画していただき、地元の関係者として心から感謝を申し上げます。
　昨今の異常気象による大変な豪雨によって、海部川では上流からの砂利が中流下流へと堆積し、地域住民は洪水に対して非常に不安に思っています。また、農地につきましても多大な被害を被ってきました。今回の計画を、この委員会で協議し、一日も早く着工していただき、住民の不安を取り除いていただきたいと思います。
【Ｅ委員】
　多良の堤防が大変不安に思っていました。もし堤防が決壊すると、大里地区も冠水しますし、特に四国電力が冠水しますと、当社も休業しないといけないと心配していました。
　今回知事さんのご協力のおかげでですね、この堤防の対策をしていただき、一安心しております。
　まだまだ、ご承知のとおり下流の河床が高く、この点については心配をしております。
　知事さんがおっしゃっていましたが“ピンチをチャンス”に、これを言葉を変えるとですね、ゴミを資産にできないものかと考えてるんですけども。その中で、一次産業において野菜を作る農地に利用できないか、あるいは急時の高台移転に利用できないか、こういうような何かゴミを資産に出来る様な案を考えていかなければならないと思います。
【Ｆ委員】
　県におかれましても十分な提案対策がされていることを今改めて思いました。
　私が考える砂利の活用方法は、堆積砂利を利用して、毎年急にじゃなくても徐々に小さな丘を作ってみてはどうでしょうか。そして、そこが住民が憩える場所として、末永く一

過性のものでなく、後々まで残せるような場所にして頂ければと思います。

【G委員】

砂利を有効に使えないかなと考えた時に、雑草が生えないように草を抑えることに利用できるのではないかと思います。

【委員長】

この４名の方々の先程のご意見に関して事務局から何かございましたら答えていただけたらと思います。

【事務局】

今、委員 4 名の方からそれぞれ意見を伺いました。色々な活用の策とか、あるいは堆積した砂利を早く取ってほしいと要望がありましたので一つ紹介させていただきます。

海部川水系で、どれだけの堆積砂利を取ってきたかということを紹介します。

まず昨年は、国の災害復旧事業を利用して、相川、笹無谷川で、2 万 7 千m^3の砂利を撤去しました。また、県の維持工事でも撤去しております。この箇所が、海部川流域で、平成 26 と 27 年で 10 箇所程あって、合計で約 1 億円ぐらいの費用をかけています。

それと、もう一点砂利採取ですが、過去数年間止まっていたものが昨年度から再開し、1 万 3 千m^3の砂利を採取しました。

それと海部川は、E委員からもお話がありましたけども、こういった堆積砂利の対策だけでなく、護岸整備とか、あるいは耐震工事もやっており、少しずつではありますが、良くなっています。

また、利用の話ですが、堆積砂利は、河川管理上は厄介なのもですが、必要な方にとっては宝であると思います。E委員がおっしゃいました農地への活用とか、あるいは高台への移転、F委員の徐々に小さな丘を作っていってはどうかという提案、G委員の雑草を生やさない為に庭に砂利を敷くといった活用方法、いずれも非常に貴重なご提案です。

こういった提案については、県と共に町の方でも一緒になって考えて頂き、今後取り組んでいきたいと思います。

【委員長】

それでは、続きまして委員の方からご意見を頂けますでしょうか。

【H委員】

私は母川上流の中山地区に住んでおります。

今回の台風 12 号の被害というのは、我家は 1m20cm の被害を受けました。

十数年前から庭先はもちろん、大雨が降るたびに床下浸水の被害を受けており、そのたびに避難していました。今回は、避難する時間もありませんでした。その時の被害は、私の家は１階が全滅、母が住んでいる母屋は平屋で、そこは全滅です。

娘も幼いころは“海部っていいな”、川に行って海老を獲ったり、泳いだり本当に楽しい思いをしてきました。ただ、今回の事で自然と共存していくのは怖いな。一生懸命生きていくためには、どうしたら良いだろうという事を家族で話合ってきました。若い方々が住

むには危険かな、子どもを連れて住むには安心、安全な所ではないかなと思っています。
私が嫁いできた時は、なんて良い町なんだろう、なんて良い所なんだろうと、本当にこんな所はないなっていうほどに海部を大好きでしたが、今回の被害を受けて次の世代に残していく為には私達が今動かなければならない、安心、安全に暮らせれる町づくりをしなければならない思っています。
専門的な事はわかりません。ただ、砂利を取れば水は流れるそういうことだけ私は言えるなと思っています。
【K委員】
大里松原海岸は、徳島県でも、三大海岸といわれまして、とても自然が残されてる海浜でございまして、徳島県の指定動物にも扱われるアカウミガメの三大産卵地の一つとして扱われております。先程県の方からも砂利が減ったという様な住民の声を頂いたという事を聞かせていただきましたが、今回の工事に関しては、そういう砂利を取るという所でもございますけども環境へも配慮していただいてるというふうに感じさせていただきました。
海岸の砂浜というのは河川から供給されるものでございますので、変に取るとですね海岸が痩せてしまったりというような事に繋がるというようなことで、ウミガメの立場からすると一番心配な所なんですけども、それを養浜という形で移していただいてということで、その砂浜の保持というのも考えていただいたということで大変ありがたく思っております。
また、砂浜というのもそうですし、川というのも結構環境が変わりやすいという場所です。それに関しても長期的な目で見ていただくというようなこともおっしゃっていただきまして、次の変化に柔軟な姿勢をとっていただけるということは環境の面からしても大変ありがたく思っております。
【J委員】
私の小さい時はものすごい砂利が多かったです。今のよりも倍ぐらいですね。ここ数年ものすごい減って、大震災でも起こったら沿岸まで相当被害が出るんではないかと心配しております。その為には平時に砂を増やしていただいたらと、こないだ少し話聞かせていただいたんですが、ええ話やなと思っております。
それとも一つ堆積砂利をあそこに置けば、波が立つ度に、砂利に含まれてる栄養分が相当高いと思うんですよ。海岸口が海藻が入ってきたり色々良い影響があるんではないかと思っております。是非早急にこの工事進めていただきたいと思いますので宜しくお願いいたします。
【I委員】
この会の目的からいえば私の所属する漁業組合は、どちらかといえば反対があるというか、生物の環境保全とか河川管理とか水辺の動植物の増殖、水と川、自然に携わることが我々のポジションであろうかと思います。
この会の目的である県民の命と財産を守るという立場になれば「人間の命は地球よりも

重い」という言葉があるように、どうしても、そっちを優先すべきであるという思いの中で、Ａ、Ｂ、Ｃゾーンの事業区間のなかで、跡地、いわゆる掘削をした後の漁場作りをできるだけ配慮してほしいということを県さんにもお願いして、できるだけ検討させていただきますというお返事をいただいておりますので、この事業が何年続くか分かりませんが、その過程の中で細部にわたっては相談させていただければと思いますので、宜しくお願いをいたします。

【M委員】

私達の団体は、平成７年におりました阪神淡路大震災をきっかけに地域を繋いで行こうという住民参加の集まりがありまして、それをきっかけにボランティアパートナーが中心にまとまって子育て支援活動。小さい子ども達ＴＩＣボランティア活動推進をしながら地域でいろんなイベントを組んで活動しています。

私達の団体がこの協議会で何が出来るかなと考えた時に、そういう工事ですとか、養浜の知識ですとか、そういうのが全く無い素人ばかりの団体ですので、ハード面というかソフト面で、工事をする時にダンプがおそらくかなり通るようになるんではないかなと思います。保育所の送迎、幼稚園の送迎、また、住民の通勤の時間にも重なったりすることはないかなっていう心配点も一つ住民の方から出てきました。

それと、海部高校、地元一つの高校なんですが、海部高校が、防災の授業をおのおの定期的に取り組んでいく、防災訓練を取り組んでいくというお話をお伺いさせて頂いて、河川の土砂を利用して土嚢作りを子どもたちがする、そういう河川の安全に対する知識を深める、そういう活動も出来たらなと思っています。

河川の管理の工事とかも色々あると思うんですが、その辺り本当にまだまだ住民は知らない事もありますし、こういう県や町のすばらしい河川を守っていこう、人の命を守っていこうというすばらしい取り組みを、本当に知らないままで過ごしている住民が沢山いると思うんです。できるだけ私達も協力したいと思いますので、色んなイベントで、楽しく川で遊べるイベントを考えたり、色んな川の専門家とかに安全対策をちゃんとしていっていただけたら、そういうソフト面で川の利用、川のあり方とか共に考える、川の土砂、砂利に対して、こういう様なやり方もあるんだなという意見もらっていこうかな、こういうふうに動けたらと思います。

【Ｌ委員】

今回このお話をいただいて、まず大きな視点で考える必要があるんではないのかなというふうなことで、今日の資料の中にもあったんですけれども、総合管理という視点で森林を正しく整備することで河川の土砂の流出を抑えていくことが出来るんではないかなといった事で、今、徳島県の確か新次元林業プロジェクトというふうなのが動いているかと思います。そちらとの連携、どういうふうな形でやっていくと河川をより良く保たれるみたいな事を少し限定しながらやっていってはどうかなという様なことを一つ思いました。

それとあと、先程もＦ委員さんが小さい丘を作っていくというお話、その時にぽっと思

ったのがアートなんですよね。ちょっとした丘を作るのにもアーティストさん１人入るという事でサポーターがついてきたり、あと、地域の方が一緒に参加したりということで地域が盛り上がって色んな事が出来る。

そういうことでもしお役に立てる事がありましたら、ご相談いただけたら言うふうにと思います、宜しくお願いします。

【委員長】

それでは、今ご意見いただきました 6 名の方の意見に関して事務局の方から何かございましたら。

【事務局】

はい、それではお答え出来るものについて、答えしていきたいというふうに思います。

まず、H委員からは、ご自宅が大変な被害を被ったという事で、1階が全滅したというふうな話もありました。

一つ紹介させていただきますと、平成 26 年の浸水被害の要因というのは、色々あるんだろうと思うんですけども、一つは先ほどの資料にもありましたとおり、海部川本川の堆積砂利が溜まりすぎて、本川の水位が上がって、それで本川の水位が上がると当然支川である母川とか、あるいは居敷川とかいうのも、なかなかスムーズに流れて行けないと、水位があがったままという事になりますと、結局はその流域にある屋敷とか、田畑でありますとかが浸かってしまうと、いわゆる内水被害が多いんではなかったかと思います。

我々はそれを解消する為に、新たに国の事業として浸水対策に着手しました。その事業区間がＡゾーン、下流から 3.1km 程となっております。今年度からお金がついたということで、まずは測量なんかでどのぐらい溜まっているのかという事を計測してたんですけども、近く、母川の合流点付近の堆積砂利を除去する事が出来るというような運びになりました。関係機関と色んな調整した上で、その砂利を養浜に使うというふうな事で進めているような状況でございます。

次に、K委員さんからは、大里松原海岸への養浜は、大里海岸自体がウミガメがよく上陸する三大海岸ですよという事で、我々が行おうとしとる養浜自体も環境にかなり配慮してるので、いいんじゃないかというご支援をいただきました。我々にしても、これから始まる事業でございまして、状況を十分観察しながら場合によれば、委員さんのご意見を伺いながらですね、柔軟に対応していかなければならないというふうに思いますので、また今後ともご支援を宜しくお願いいたします。

それとＪ委員さんからは、大里海岸が非常に昔と比べて砂が減ってきたというようなお話がありまして、養浜自体が、栄養分が非常に含まれている山の成分もあるので、海の砂にとっては、そいうった意味でも海藻が入ってくるとか、という部分もあったりしていいんじゃないかという、ご支援をいただきました。

続きまして、Ｉ委員さんからは、立場としては反対する立場なんですけども、命を守ることが一番という事で、そちらの方は応援していきたいという様なありがたいお話をいた

だきました。砂利を取ったあと地に、どう配慮していくかについては十分ご相談させていただいたりとか、施工する時期とかやり方についても、今後とも協議をいたしながら進めていきたいなというふうに思います。

その次、M委員からは、地域を繋ぐ活動をしてるということで色々取り組みを紹介して頂きました。一つは鮎の掴みどりをしたらどうかというお話もありました。それと、遊び場としての砂利を利用したらどうかというふうな話もありました。もう一つは今後の防災訓練の活動の場としてそういうフィールドとして使ったらいいんではないかという色んなご意見がありました。それについては、ご意見を参考にしながら色んな施策に繋げていきたいと思います。

また、砂利の運搬にダンプが頻繁に走るので、子ども達の通学路になっている所なんかは危ないというふうな様なお話もありましたので、そう面については、十分我々としても配慮しながら進めてまいりたいというふうに思います。

最後に、L委員におきましては、大きなお話の中で、総合的な管理計画を進めていく中で、川だけでなしに、森林プロジェクトといった様なものと連携も必要じゃないかという様なご意見もいただきました。まさしくその通りでございますので、産業交流部とも連携を図りながらですね、その総合管理計画を検討していきたいというふうに思っております。

また、丘を作るというご意見が前半の部分でありましたけども、そういった所に、もう一つ側面としてアートというものを取り入れたらいいんじゃないかというふうなお話がありました。ご自身のですね、そういった活動をしてきたという様なお話もありますので、是非とも、今後そういう仕掛け作りという事についてはご提案なり、ご協力なりいただけたらありがたいなというふうに思います。以上となります。

【委員長】

それでは、ここで本日欠席されてる 2 名の委員の方から事前にご意見いただいておりますのでご紹介させていただきます。

まず、B委員からは、特別なご意見等はないという事を受けたまわっております。協議会から選出されたばかりで簡単なことから議論していく段階の中で、議論をしていきたいという事でございます。

もうひと方、D委員からは、海部川の砂利は固くて割れにくいと。コンクリートの強度が高くなる上質な骨材であろうというふうなことをご意見としては伺っております。

【委員長】

海部川の対策として、海部川の河口の砂利を養浜するという話が対策としてございましたけれども、まず一点目として気になるのは、海岸の粒径っていうのと、掘削場所のの粒度分布というのは実際どれくらいなのですかね。

もちろんその気になる点というのは、ウミガメが上陸する場所であるということなので、粒径が大きすぎると、多分、そのカメが入ってきて穴を掘る時に作業のやり辛さとかそう

いうのが出てくるんではないかなと。そういう所が少し先程の話を聞いていて少し気にはなった所ということですけども、それに関して何かもしご回答ございましたら、

【事務局】

粒径についてのご質問ですが、海岸と掘削箇所で、数か所ずつ粒径分布を調査いたしております。その結果、平均粒径としましては、河川側の方が少し大きいという結果、数値的には得られましたけれども、全体的には粒径分布はほぼ似通っています。養浜する際には、ゴロっとした様な大きな石もございますのでそういった石は手作業で除けまして、できるだけ海岸の環境を変えない様な粒径にしたいと考えております。

【委員長】

配慮をされるということですね。養浜されてからのモニタリングというのもしっかりとされるというふうに認識しておいてよろしいですね。

【事務局】

モニタリングにつきましても、北側の 1km 部分だけなんですが、今後、何千 m^3 と何万 m^3 という砂利をはめていきたいと考えておりますが、砂の動きというのを十分つかみながら、十分に測量をくり返し毎年観察しながら、また、K委員にも相談させていただき、慎重に養浜していきたいと考えております。

【委員長】

二点目なんですけども、これは下流も上流も関連しての土砂の堆積に関しての質問というか意見なんですけれども、まず気になるのが、下流側の母川の合流点付近、どうしてこういった場所で堆積が継続的に発生しているのか、というのを時間が少しかかるかもしれないですけども、堆積の要因というのをしっかりと調べていくっていう事が大事じゃないかなと思います。

上流側に関して、この大井堰から上流側、笹無谷川の上流側で国道が浸水したと、もちろんその笹無谷川、相川の流域も浸水被害を受けているということを報告としては聞いておりますが、上流河道と下流河道と見比べていただいたら分かると思うんですけれども、やはり土砂の堆積を引き起こすような河道の曲がり方、屈曲に近い様な形、曲りを是正していくというのは、なかなか難しいとは思うんですけれども、もし何か、こういった川の中で、澪筋の形をうまくコントロール出来る様な、水位を下げれる様な、土砂をしっかり出していける様な、そういう様なものが出来ないかなというのを、一つ意見としては述べたいというふうに思います。

今のことに関して何かございましたらお願いします。

【事務局】

先程事務局からの説明資料の中にも書いてありますが、実はこの 12 月補正で、今の状況を、まずは把握せないかんということで、海部川の河口から神野堰までの間を横断測量を実施するというふうにしております。しばらく全川に渡る測量はしてなかったわけですけども、これによって安全の状況が把握ができる、これに加えまして毎年測量するという事

であれば莫大な費用がかかるという事もありまして、簡易的に、定期的に観測するという意味から写真撮影を定点で観測することによって、状況に変化が出てくるのではないかと思っております。

委員長さんご指摘のＣゾーンでは、特に河川の湾曲が著しいということで、どこの部分をどういうふうに取れば効果的なんだという話については、その横断測量の結果も踏まえて、委員長さんとご相談しながら、有効な箇所から砂利採取組合さんにもお願いして、取っていただくようにしたいなというふうに思っております。以上です。

【委員長】

量的なものと位置を、この会議で説明していければというふうに考えているという事ですね。

【事務局】

はい。

【委員長】

最後に、中流域のＢゾーン、住民に近い場所ですが、そういった所を積極的に川の活用として考えていければというふうに考えておられると思うんですけれども、私がこの海部川を見ていて非常に気になる点が二極化ですね。樹木が砂州に繁茂して、そこが要するに人も立ち入る事が出来ない様な状況になっていると、一方で澪筋は河床が低下していて、そこはもう狭くて深い、常日頃でも狭くて深い様な、流速も速い様な、そういった川になっているという事ですね、先程M委員さんが言われている様に、川で子どもを遊ばせたい、そういった状況にする為には、土砂だけじゃなくて、やはり樹木というのをしっかりと管理できるような枠組みを作っていく必要があると感じております。

私としては、こういう二段に分かれている川の形じゃなくてですね、やはり堤防から入って行きやすい川の形を、そういったものをしっかりと、この下流域の住民に遊んでいただける様な場所を、砂利採取の中でつくっていただきたいと思っています。

これは私のコメントです。

４．その他

事務局より連絡事項の説明

次回の開催は後日連絡

５．閉会

前田海陽町長より御礼の挨拶

開会

委員長の選任

事務局の説明

意見交換１

意見交換２

閉会